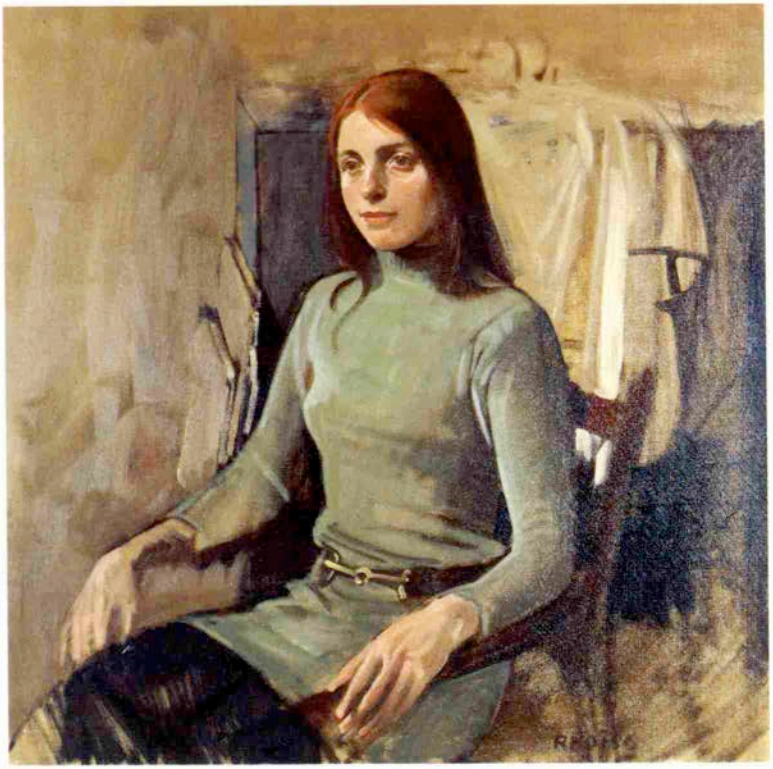
THE KOBECCO 3

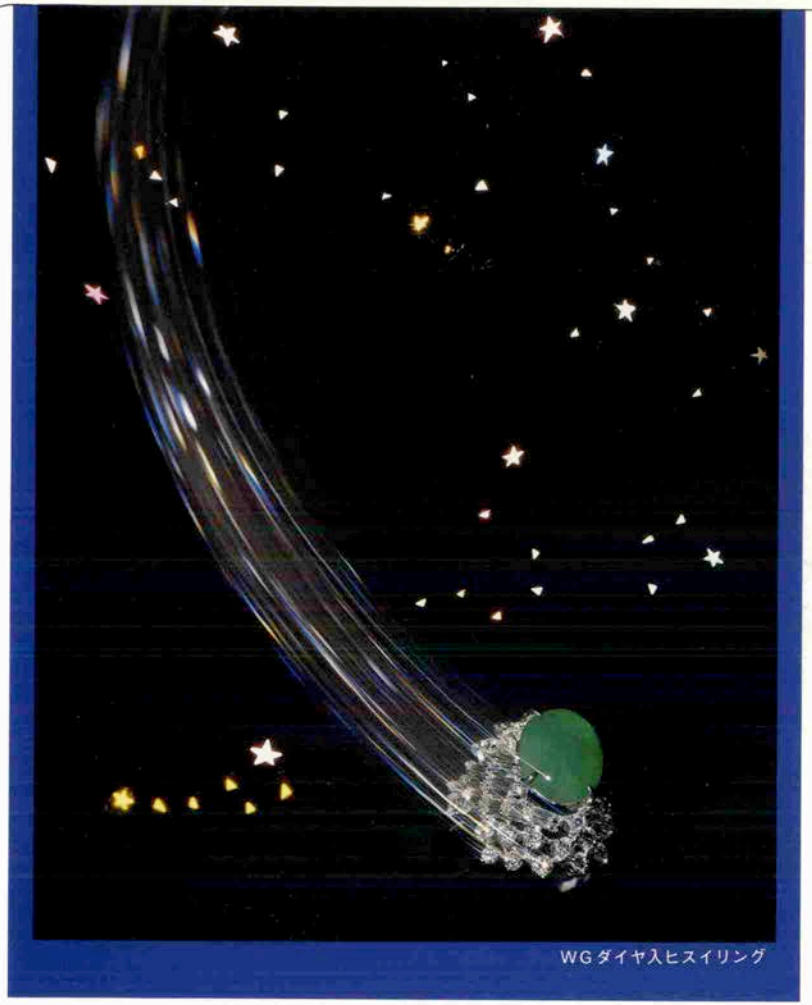
MARCH 1978 NO.203 神戸っ子

神戸っ子 昭和40年1月20日第3種郵便物認可
昭和53年3月1日印刷 通巻203号
昭和53年3月1日発行 毎月1回1日発行



BENIYA
せせらぎ澄んで緑ごけ 花のかすみか朧(おぼろ)空
裾をつまんで駆けてみる たとえば人魚の爪さき
はじける陽。
●ベニヤ・クオリティファッション近ずく花のメッセージ。
LADIES SHOP
Beniya
the ladies fashion of the season. creative beniya
本店－神戸市生田区三宮センター街1丁目 ニューセンター1F・2F ☎332-2135

ミキモト春のブライダルフェア
3月7日(火)～21日(火)
午前11時～午後6時30分
ティアラー・クラウン・デザインコンテスト
お好きなデザインに応募してください。
抽選で素敵なプレゼントがあたります。
小さくても、いいものを贈りたい。ダイアモンドの婚約指輪。
花嫁の髪飾り・ティアラーを
無料でお貸し致します。
期間中、ダイアモンドリングをお買い上げの皆様にお貸し致します。詳しくは店頭でお尋ねください。
世界の宝石店
MIKIMOTO
神戸サンロイヤル店＝三ノ宮・サンプラザ7階
TEL.332-3715
永遠の愛を誓うダイアモンド。大きいだけが全てではありません。同じご予算なら、これからは、いいプロポーション、いい色、いいブリリアインのものをお選びください。ミキモトは、
ダイアモンドの婚約指輪、エンゲージリング。花嫁の清楚に欠かせない真珠の3点セットなど、お値段手頃、とも豊富にご用意いたしております。どうぞお一人でご覧ください。



WGダイヤ入ヒスイリング

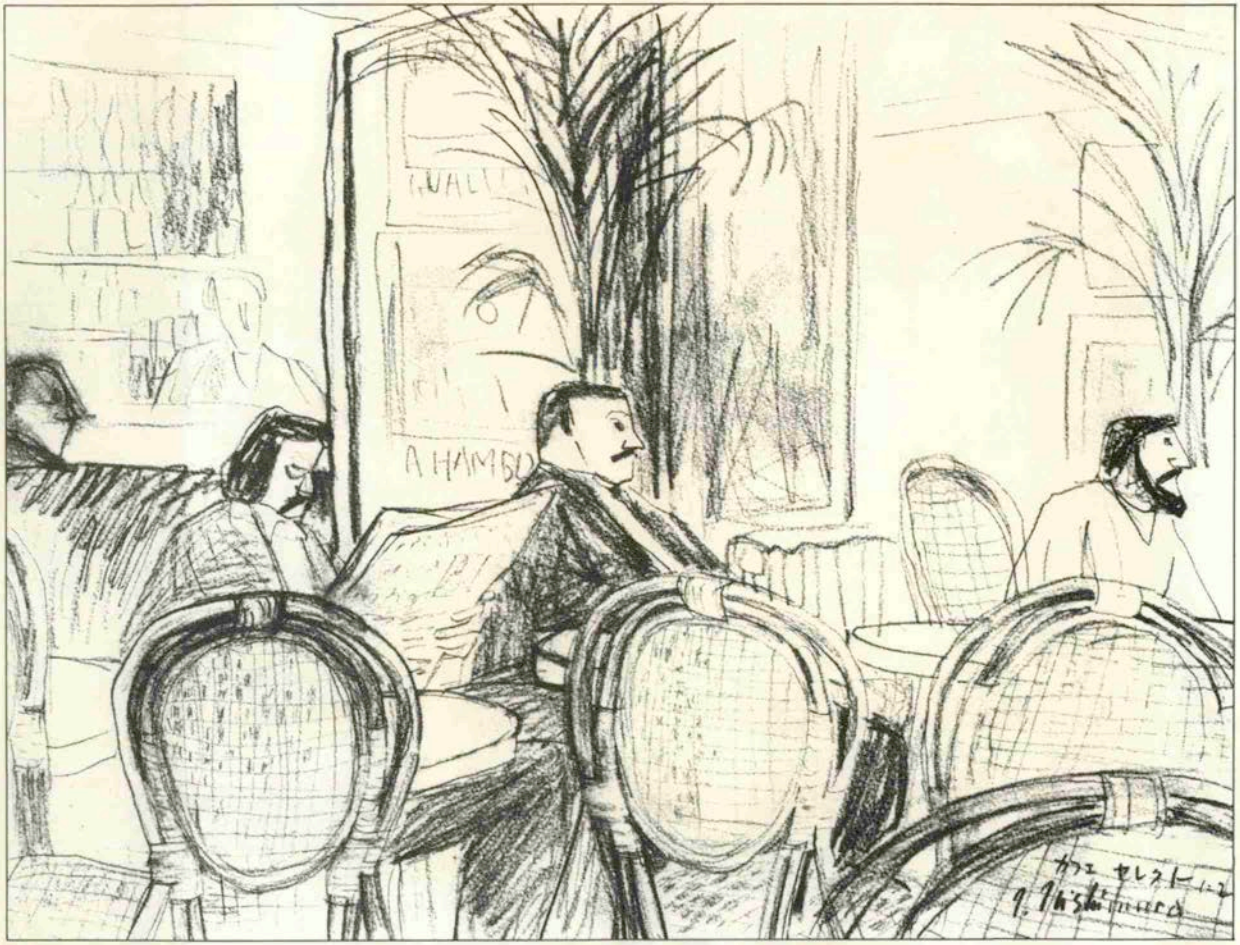
■FANTASY KOBE〈Vol. 10〉

とおくの夢 宇(ひろ)い銀糸の世界

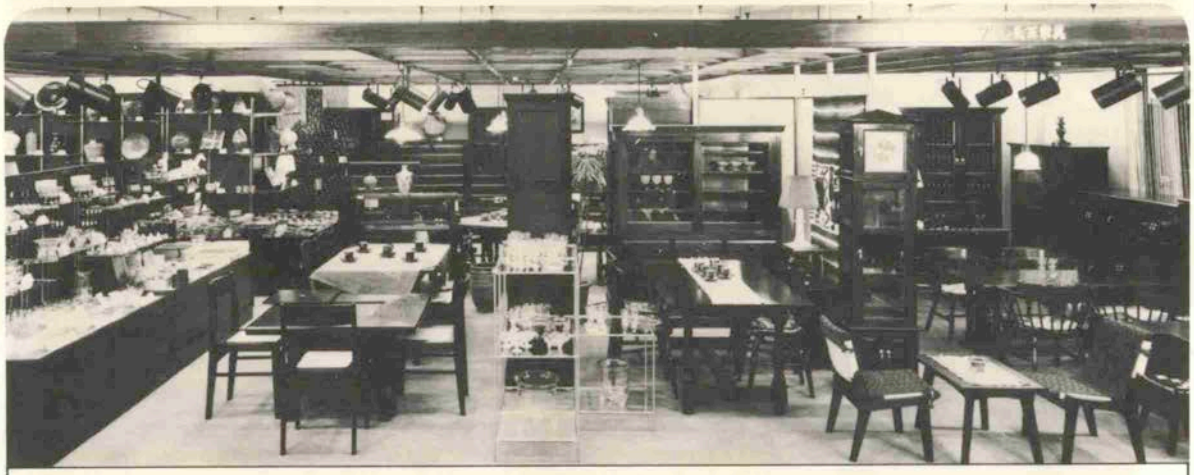
宝飾店
Tajima
タジマ
元町2丁目　TEL 331−5761代表

タジマでは宝石の鑑定を無料でご相談に応じておりますのでお気軽にご利用下さい。
定休日は水曜日です。

スケッチブックから ● 僕の見たパリ その3・カフェセレクトにて



絵・西村　功



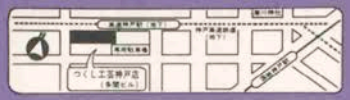
『お子さまにこそ
つくしのビューロー・デスクを与えて
頂きたいものです。』

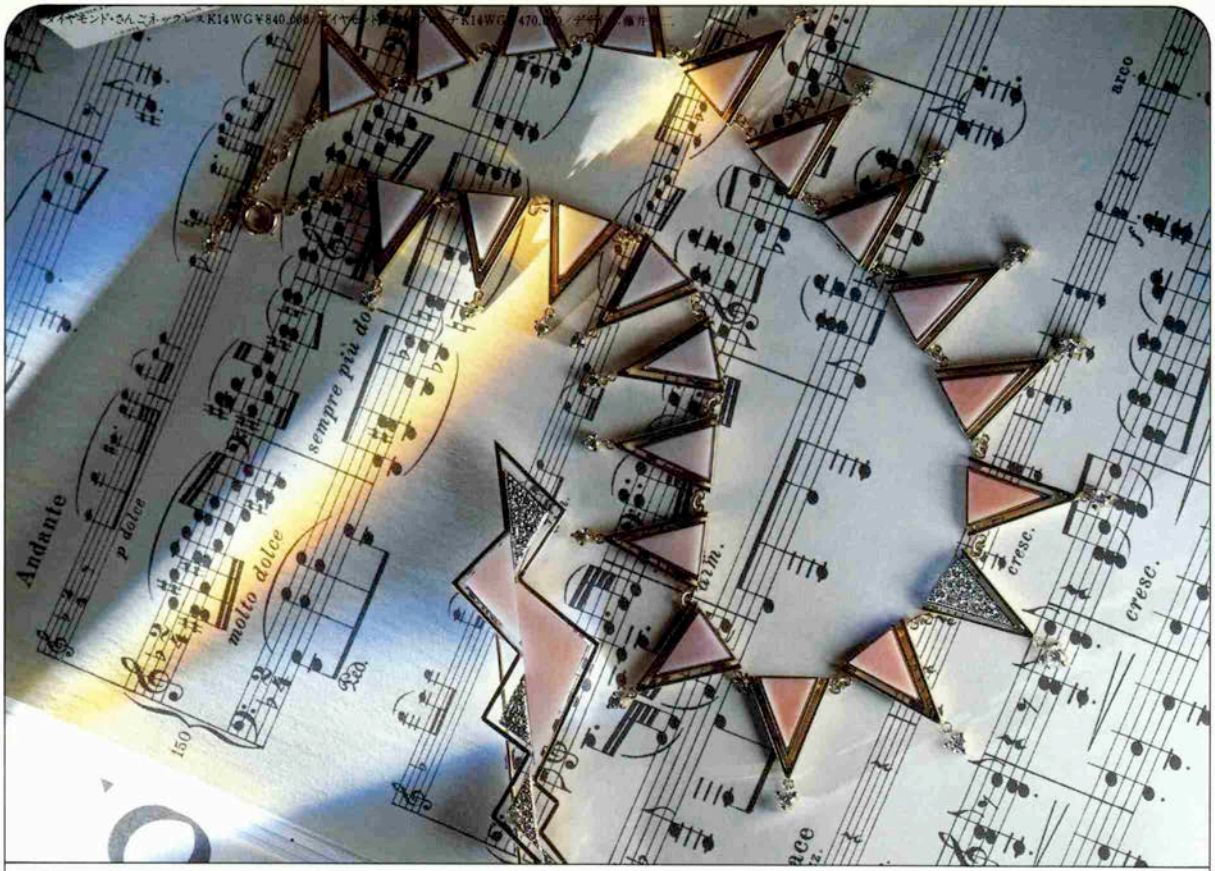
今や、民芸家具の代名詞となっている「ビューロー」は、民芸運動の祖、柳先生が昭和の初期英国から持ち帰ったものを、今は故人となった伊東安兵衛さんがデザインしたものです。
材は、水目桜、欅、檜などの良材をふんだんに使っています。使い込んで頂くと、木の地肌がよく磨かれて、美しい夕焼雲のような独特の色彩に変化してきます。
ご家庭の雰囲気を醸し出す大切な役目を果すことと思います。
椅子もビューローにマッチしたものがいろいろあります。
（伊東氏はつくし工芸の顧問でした）

●ポールフット
ビューロー（格ムク材）

日本伝統工芸協会
つくし工芸神戸店
神戸市生田区多聞通り5丁目1－1
阪神家具センター1階　☎（078）361－2158
営業時間　AM10:00－PM6:00　定休水曜日

■主な展示品目
●食器棚　●飾棚　●チェッサー　●ビューロー　●書棚
●食堂セット　デスク　サイドボード
●九州明治びいどろ　●桑織瓦　●小木工　●民芸陶器
●民芸行灯　●草工品　●その他





D E S I G N E D B Y T A S A K I

オタマジャクシをどう繋いだら、胸を打つか。石をどう繋いだら、胸を輝かせるか。田崎真珠。

札幌・東京・名古屋・大阪・神戸・福岡・香港・ニューヨーク・お問い合わせ、カタログのご希望は〒100東京都千代田区永田町2-4-3永田町ビル内田崎真珠販売企画室 TEL.03(580)1688までご請求ください。(●) あなたの真珠はパールマークの店で

豪華さと可憐…ベニー毛皮店の二つの魅力を

見つめられる毛皮 創業20周年

盗難・火災・破損保険・お買上品の保管・
クリーニング等アフタケア完備

最高の品質と信用を誇る毛皮専門店

ベニー毛皮店

本店／神戸国際会館1F ☎078-221-3327
支店／さんプラザ7F ☎078-332-4661

バラエティショップ

ベニー

国際会館1F ☎078-221-3327
さんプラザ10F ☎078-332-4662

●神戸っ子17周年記念〈第7回〉ブルーメール賞／文学部門

素直な感受性と雅馴なことば——江藤越子

〈詩人「灌木」同人〉カメラ・米田定蔵

詩を書き始めたのは十年前、病院に入院したのがきっかけだった。それから十年間の詩人江頭越子の歩みが、今回選考の対象となった「繻子」に記されている。五年前からファッションデザイナーの仕事を始めた。先秋のショウは、縮緬やかすりの日本の布を使ったユニークなデザインで好評だった。これもまた、彼女の十年の歩みの内に記され、跡を残す。裁つという構えの中で／裁てぬという心のほつれを／すっぱり切ってみたい（「裁つ」より）「繊細すぎて壊れてしまいそうだから、大切にしてあげたい」詩人の小林武雄さんの江頭評。大きな瞳、細い肢体、職業柄かとてもお洒落、そしてとにかく美女。「おいしい物を食べたり、宝塚歌劇を見たりするのは大好き」だけど「詩を書くのはよくイヤーになる」ことばを追いかけて、表情も素敵によくかわる。そして邪気の全くない笑い声。十年前に比べると「今は充分に幸せ」だそうだ。だから「その頃の詩は思い出みたいなもの」になってしまった。淡々としている。

処女詩集で受賞というこのラッキー・レディにはこれからの詩についての気負ったことばは一言もなかった。まるで春の小川のように、自然なまま流れていく人の様だ。

（六甲会館にて）

本場フランス料理を囲んで楽しいパーティーをお開き下さい。

入学祝、謝恩会、就職祝、歓送迎会等のパーティーにご利用下さい

KC

お1人様￥3,000より
スープ、アントレ(肉料理)
サラダ、デザート、コーヒ
パン。……￥3,000

BB

年中無休
駐車場有

*お料金はご予算により相談させていただきます。

ナイトクラブ・レストラン
神戸 北野クラブ
神戸市生田区北野町1丁目64
TEL (078)231－2251

レストラン
神戸 ブラン ドゥ ブラン
神戸市生田区京町77－1 神栄ビル 7F
TEL (078)321－1455

東京 レストラン ストックホルム
東京都港区六本木6-11-9スウェーデンセンター
TEL (03)403－9046

●神戸っ子17周年記念〈第7回〉ブルーメール賞／音楽部門

あふれる豊かな音楽性

――関 晴子〈ピアニスト〉

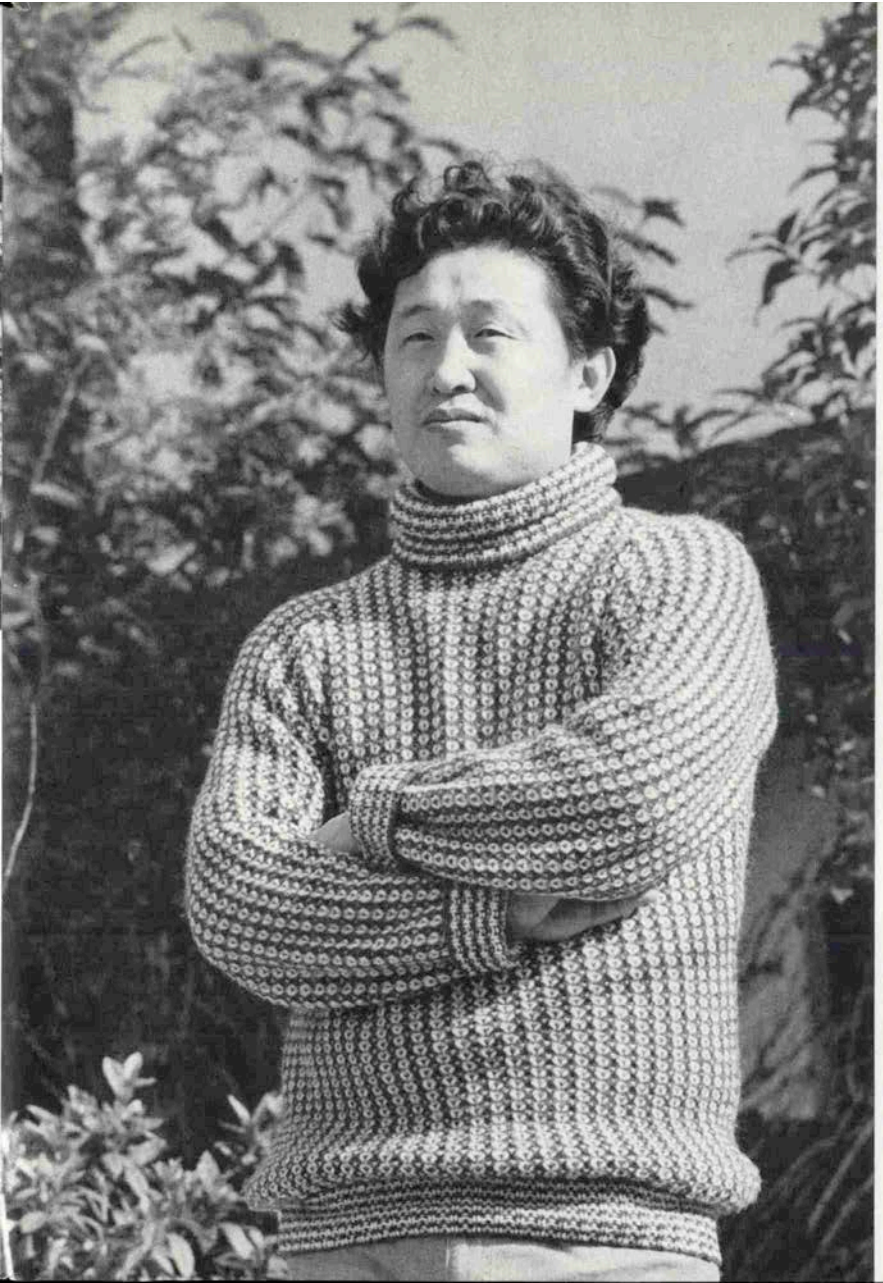
カメラ・米田定蔵

――モーツアルト「ピアノ協奏曲イ長調K488」が一番、聞きごたえした。やはりモーツアルトのもっている人間味あふれる音楽が、いま人間としての成熟度が高まっているこのピアニストと合致していたからではないかと思う。（中略）モーツアルトの深い人間的な陰影が、関晴子のピアノのはしばしからこぼれ出ていた――これは、音楽評論家、柴田仁氏の「関晴子ピアノ協奏曲の夕べ」（昨年3月18日・神戸文化ホール）に対する讃辞である。

東京に生まれ、幼時よりピアノに親しむ環境にあった。桐朋学園高校在学中に、NHK毎日音楽コンクール第一位に入賞。卒業後、フルブライト給費生としてニューヨーク・ジュリアード音楽院に入学し、同学院コンチェルトコンクール優賞のほか、リサイタル、ジュリアードオーケストラとの協演などに活躍し、昭和三十八年帰国という経歴をもったまま、結婚によって演奏活動から遠ざかった。そして数年前から再び始動。

しかし、今となってはその空白が生きたのかもしれない。しとやかで謙虚で清楚な……その関さんのピアノの音に彼女の内にある豊かな音楽性、人間性が表出されてきた。今、その響きは関晴子自身である。

（住吉川にて）



●神戸っ子17周年記念〈第7回〉ブルーメール賞／美術部門

ただひたむきに描き込む

山本文彦〈洋画家〉

カメラ・米田定蔵

「何しろ人間を描かなくっちゃ、人間はムツカシイし、ひょっとすると面白がっているのかもしれませんがね」快活に話す言葉に油に乗り切っているという現在の調子がひしひしと伝わってくる。東京と神戸を往復の日々、筑波大学という新しいシステムの大学で教鞭をとるかたわら自宅で制作と、忙しい中にも天性の素質と「手で描いている絵かき」と自称する程の修練が、この人の絵に見事に花開いているのである。

精密に、幻想的にものを描く、自分なりの新しいとらえ方を……と意欲も満々であり、何よりも喜ばしいのは、どんな物事に対しても熱意と誠意を失なわないこの人自身の生き方であろう。とにかく、研究熱心で、ひたすら描き込む……のである。

父君が同じ絵描き。厳しいが憧れもあったという少年時代、高校の時に絵描きになる！と決心したという。描くことが面白かったという時代が過ぎ、さて今は？やはり〝ひたすら描き込む〟のみか？。東京・千葉・山口、そして神戸と居を変え、その度にその地方の賞という賞をかっさらっていく男、安井賞、金山賞作家にあえて贈るブルーメール賞。この意味は大きい。

●神戸っ子17周年記念〈第7回〉ブルーメール賞／ファッション部門

日本の美しさをドレスに——藤本ハルミ〈服飾デザイナー〉カメラ・米田定蔵

日本の美しさをドレスに表現してみたい——その夢を実現するために独自の服飾技術を研究。日本の伝統的なきもの地と現代ファッションを調和させ、その作品のなかに日本の詩を、旅情を、四季を、古典を……優雅に詠いあげた。

この独創性が賞に結びついたわけだが、きもの地を洋服に生かそうとしたそもそもの動機は、「初めてヨーロッパに行ったとき、西洋人と日本人の体型のあまりの相違に驚きました。そして日本女性を一番美しく見せてくれるきものを現代の日本女性に最も似合う形にして新しい民族的な誇りを持った衣裳にすることはできないかと考えたんです」もちろん外国の生地も使う。日本の美しさを表現できるものなら何でも。

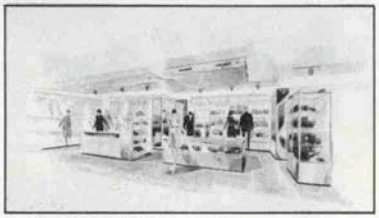
三十六センチ幅の着尺を立体裁断によって自由自在にこなすまでに十年間を費やした。その間、「日本にある素材で、私の知識で分かっているものは全国を歩いて集めました」ことば通り、大変な努力家である。

〝遊びをせむとや生れけん、たわむれせむとや生れけん〟『梁塵秘抄』の中のこの一節が大好きだとか。行き詰まりを感じたら、自然とたわむれ、溶け込み、触発される。少女のような純真さがまた新しい作品を創り出す。

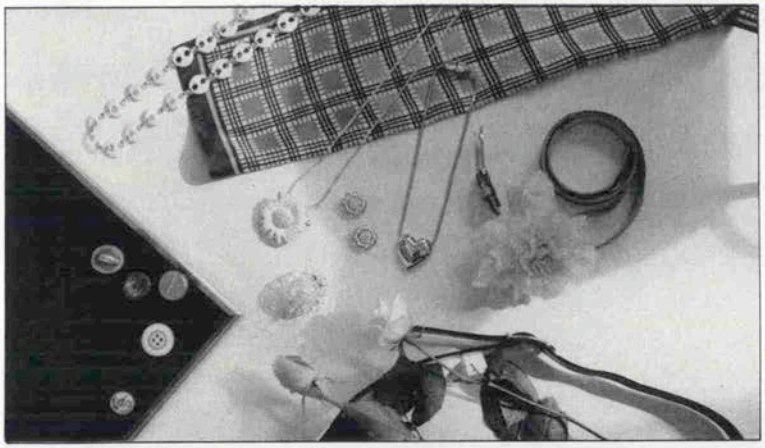
センタープラザ西ビルに
3月24日新装オープン！

ボタンコーナー

ハンドバックコーナー



アクセサリー・裏地コーナー



舶来・国産オリジナルボタン・ハンドバック
アクセサリー・洋裁用品・裏地・芯地

マルダイ

三宮センター街本店（センタープラザ西ビル）	☎331-0064 ☎391-4146
さんちかタウン店	☎321-4093
垂　水　店	☎705-0027
サンこうべ店	☎351-6006
さんプラザ京町店	☎332-1356

●神戸っ子17周年記念〈第7回〉ブルーメール賞／古典芸能部門

心打つ踊りを

――尾上菊見〈邦楽家〉

カメラ・橋本英男

「舞踊家としての私を育ててくれた母を六年前に亡くした時は、初めて踊りをやめようかと思いました」その挫折から昨年十一月に久々のリサイタルを開き、長い芸歴からくる重厚な踊りが好評を博した。六才の六月六日から、日舞を習い始め早くも中学生時代には将来舞踊家になろうと決心していた。「踊りで同じ間違いを二回指摘されるのが死ぬほど嫌いなんです」という性格が今日の尾上菊見をつくりあげたのかもしれない。

尾上流との出会いは昭和三十一年に先代尾上菊之亟の踊りをみて心打たれたことから始まる。今も一番印象に残る舞台は名流さつき会で菊之亟氏と一緒に踊った〝宮薗節鳥辺山〟。ブルーメール賞には第一回目からいつも候補にあがっていたが、神戸でのリサイタルなど活躍が少ないということから見送られていた。ブルーメール賞の対象としては最後の大物。菊見さんの夢は大きい。見ている人の心を打つような舞台、しかも五日間ぶっ続けで観客を動員できるようなリサイタルを催すことだ。衣裳でごまかしのきかない素踊りが好きで、今の若い人は、頭で覚えようとしすぎる、もっと体で覚えてほしいと語る。自宅のある須磨の磯の香りと夜景を愛する生粋の神戸っ子。（須磨寺にて）